

<全体分析>

試験時間

120

分

解答形式

客観式の設定問が3問で、あとはすべて記述式。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

英文の語数は2,069で、3年連続して2,000を超えている。2017年度(2,268)、2023年度(2,160)、2022年度(2,150)に次いで、2024年度は本学部の出題歴の中では4番目に長い英文となっている。

出題の特徴や昨年との変更点

- ・大問1題の構成は11年続いている。
- ・本学部では、設問はすべて英文の前に置かれている。
- ・字数制限のある内容説明問題が出題されるのが本学部の特徴で、2024年度は「50字以内」が1問、「100字以上120字以内」が1問出題されている。
- ・例年設問の最後に置かれていた和文英訳問題が出題されず、他の設問群とは独立した形で英問英答の自由英作文問題が出題されている。
- ・試験時間は120分あるものの、例年の和文英訳と比べると自由英作文にはより多くの時間が必要となるため、全体的な時間配分には注意が必要だろう。

その他トピックス

- ・2の内容説明問題は「意味するところを…説明しなさい」という指示になっており、指定字数に合わせて説明すべき内容を検討する必要がある。
- ・7の内容説明問題には「筆者が何を伝えようとしているのかを、具体的かつ簡潔に…説明しなさい」という指示がある。
- ・Bの自由英作文問題では「自分が何の名人であるか、もしくは何の名人になろうとしたことがあるのか」を書くことを求められており、自己アピールが苦手な受験生は英語表現よりも内容面で苦勞したかもしれない。
- ・2023年度と同様に難単語が多く、辞書を使う機会が多かったと思われる。読むのに苦勞する箇所もあるが、出題されている箇所は比較的読みやすい部分となっている。

<大問分析>

| 番号 | 区分 | 出題分野・テーマ | コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど) | 難易度 |
|----|------|---|--|-----|
| | 読解総合 | 「18 世紀に作られたチェスを指すとされていた機械装置」 (2,069 words) | A: 空所補充 (2問)、内容説明 (2問)、下線部和訳 (2問)、内容選択 (1問) B: 自由英作文 (1問) A 1. 空所から chess までが didn't alter の主語となる名詞節であることを見抜く。 2. once は接続詞で impressed の前に we are が省略されている。ここでは leave A behind は「A<考えなど>を捨てる」という意味。the ladder of incremental reasoning をどうやって自然な日本語にするかがポイント。 3. 主語となる関係詞節の範囲に注意が必要。other と shrewder はともに detectives にかかっている (shrewder が比較級であることにも注意)。 4. lack for A で「A には事欠かない」という意味。 5. ubiquity は ubiquitous の名詞形。「どこにでもいるような技能者」を選ぶ。 6. manager は、内容的には「監督」のほかに「ゼネラルマネジャー (GM)」と訳すこともできる。 7. 最後の2つの段落の内容をふまえて解答するとよい。 B 自分が何の名人であるか、もしくは何の名人になろうとしたことがあるのかを説明し、その技能が自分にとってどんな意味を持つのかを英語で述べる。「解答する際に本文を参考にする必要はない。語彙力・文法力だけでなく、内容の明確さについても評価される」と付け加えられている。 | 標準 |

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・例年、設問のほとんどは記述式なので、正しい日本文・英文を書く訓練を積んでおくことが必要である。特に日本文は、自分の言いたいことが採点者に正確に伝わるような文章を心がけてほしい。
- ・内容説明の設問では、設問文から出題者の意図を汲み取ったうえで、英文中から解答の根拠となる部分を抽出する必要がある。100～120字といった字数制限のある説明問題では、解答の根拠になる部分が英文中で一箇所にとまわっていない場合もあるので、過去の問題などを利用して、どの内容を盛り込むべきなのか判断する眼を養っておくとよい。
- ・辞書の持ち込みができるので、難しい語彙・語義に神経質になる必要はない。ただし、見たことのない表現や記憶のあいまいな表現を片っ端から辞書で確認している時間はないので、文系の他学部と同程度の語彙力は身につけておくべきだろう。